

# 営 農 情 報

令和3年7月16日発行  
第17号

## 大豆の開花期以降の基幹防除について

本年の大豆は生育の進んでいる圃場では開花が始まっており、7月20日頃には開花期を迎えることが予想されます。又、開花期が終わり着莢期に入ると「ダイズマメシンクイガ」の加害期間に入りますので下記の薬剤にて適期防除を実施し、加害を抑えましょう。

○「ダイズマメシンクイガ」の防除薬剤

回数	薬剤名	使用倍率	使用回数	備考
1回目	プレバソフロアブル5	4,000倍	2回以内	展着剤加用
2回目	バイスロイド乳剤	1,000倍	3回以内	カメムシにも効果有
3回目	プレバソフロアブル5	4,000倍	2回以内	展着剤加用
臨機	エルサン乳剤	1,000倍	2回以内	カメムシにも効果有

## 大豆の各病気の防除について

○各病気に有効な薬剤

薬剤名	使用倍率	使用回数	茎疫病	べと病	菌核病	備考
フェスティバルC水和剤	600倍	3回以内	○	○		他薬剤混用不可
プロポーズ顆粒水和剤	1,000倍	2回以内	○	○		
トップジンM水和剤	700~1,000倍	4回以内			○	

## 大豆開花期追肥について

開花期は生育期節の中で最も窒素成分を必要とする時期です。尿素や硫酸を用いて追肥を行いますが、根粒菌の着生状況を確認して追肥量の調整を行いましょ。

○開花期追肥量〈目安〉（1株当たり）

施用量（根粒菌着生10個未満）	施用量（根粒菌着生10個以上）
窒素量：4~8kg/10a	不要

まもなく秋小麦の収穫期を迎えます。防除が全て終了した方は栽培履歴の提出をお願い致します。

J A み ね の ぶ 営 農 販 売 課

TEL 0126 - 67 - 2334 FAX 0126 - 67 - 2803